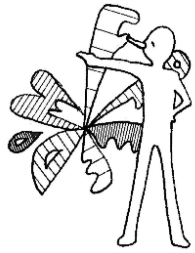


Freedom



高校生の人権広報誌

“Freedom” 第14号

2014年 1月11日発行

編集 “Freedom” (フリーダム) 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめあう日」

新年おめでとうございます。2面の記事『「ならサンウリム」に行きました』に登場された、「ちゃんへん。」さんのプロフィールを紹介します。彼のTwitterによれば「職業パフォーマー。大道芸ワールドカップ2002に最年少17歳で出場し、これまで世界60か国で公演を行う。(中略)現在、ディズニーリゾートとユニバーサルシティの専属として活動しつつ、イベント等にも出演中。(https://twitter.com/CHANGHAENG)」とのこと。同時に、在日コリアン3世として差別を乗り越えてきた体験を語る、人権講演の活動もしておられます。いろいろな行事で、豊かな出会いを体験しよう!



全国高校生集会に参加して

高取国際高校 解放研

七月三十一日、八月一日の二日間、私は部落解放第四十五回全国高校生集会に参加するため、高知県まで行ってきました。参加するのは今回が初めてで、何をやるかなどは先生から聞いていたのですが、ほんとはあまりよくわかっていませんでした。

まず全体で開会行事が開かれ、解放歌を合唱したり、水平社宣言の朗読が行われたりしました。また、高知県で有名な、よさこい踊りなどの発表がありました。そして場所を移動して分科会にわけられました。私たち奈良県連は、「第一分科会」の「今の自分だからできる解放運動」に参加しました。移動した会場は、机がたくさん並んでいて真ん中にマイクがぽつんと置いてありました。その場所におよそ一〇〇人ほどの高校生が集まり、集会が始まりました。私は圧倒されるばかりでした。

まず高知県連と和歌山県連から報告書が読み上げられました。その後みんながそれについて意見を言うていくような形で進められました。一〇〇人近くいるなかで、手を挙げてマイクの前に立ち自分の意見を発表するということはとても緊張するし、そうかんたんにできることでは



ありません。私は手を挙げる勇氣がありませんでした。そんな中、会場にいるほとんどの人が手を挙げ、発表する姿を目にして驚くばかりでした。私と同年代の子たちがこんな風に自分の意見を持ち、はきはきと発表して思いを伝えていくことに「すごい」という感情と同時に自分の無力さにショックを受けました。

私は中学校三年間、仲間と共に人権学習に必死に取り組んでいました。自分の意見も持ち、みんなの前で発表したりすることもして、自信満々で全国高校生集会に挑みました。それなのにみんなが発表している姿に圧倒されすぎて何もすることができなかつたのです。意見も言えず、手さえ挙げるのができず、ただみんなが発表する意見をメモするだけで第一日目の分科会が終わりました。本当にショックでした。今までやってきたことは、ただの見せかけだったのでないかと自分を責めることしかできませんでした。

それから夕食になりました。参加している学生みんなでバイキングの料理を食べました。席は抽選で奈良県連はみんなバラバラになりました。始めは嫌だったけれど、全国と同じように勉強している仲間と繋がるよい機会だと思いました。また、ビンゴゲームもして知らない子たちと楽しく過ごせることができました。人権学習ってかたくなるしいイメージを持ちがちだけど、こんな風にい

いたりしてみんなと過ごせるのが全国高校生集会のいいところだなと感じました。



そして部屋に戻りのんびり過ごしていました。でも寝る前になると今日の分科会で何もできなかった自分の姿を思い出すとなかなか寝つけませんでした。そのことを、一緒にいた友達に相談すると彼女も同じようなことで悩んでいました。引率者の人も交えて三人で話し合うことになりました。私は、何も発表することができなかった悔しさを伝えると、「まだあと一日あるから明日がんばって言えば?」と言ってくれました。それで私は決心しました。明日、今日伝えることができなかったことを伝えよう。

こうして迎えた第二日目の分科会。ぞつぞつと悔いだけは残したくないと思いついて参加しました。でもやはりあの会場に入るとすぐドキドキして不安になりました。一日目と同じように報告書を読み上げられました。そしてみんなが意見を言うていく中である人が、「報告書について意見を言うだけじゃなくて、それぞれ自分が今悩んでいることを発表したいんじゃないんですか。」と言いました。

私は「今だ!」と思いついて手を挙げました。友達と一緒に挙げたけど、ここで手を挙げて発言することが自分にとっての第一歩となるのではないかと思いました。そしてマイクの前に立ち、発言しました。高校で解放研に入った

が部員がひとりでも孤独で不安なことや、学校での人権学習についてあまりみんなが関心を持っていないことなど、今自分が思っていることを全部、マイクを通してみんなに伝えることができました。発言しているときは何が何だかわからなくなつて、泣きながら話してしまいましたが、とにかくみんなに思いを伝えられたことがうれしくてたまりませんでした。

その後、席に戻ると三重県連の方が手を挙げマイクを通して私に向かって、「ここにいるみんなは、あなたの味方だから一人じゃないよ。辛くなつた時には今日のことを思い出してね。」と言ってくれました。涙が止まらず、うなずくことしかできませんでした。そう言ってもらえてほんとうにうれしかったし、自信も持てたし、これから頑張っていこうと思いました。

初めて参加した部落解放全国高校生集会は、私をとっても成長させてくれたと思います。
(高取国際高校二年 坂本 莉帆)

※「部落解放全国高校生集会」は、一九六九年にはじまった「部落解放学生全国集会」を前身とし、差別と向き合い、あらゆる差別をなくそうと頑張る若い世代の交流の場として、毎年各地で開催されています。貴重な体験を通じて成長した筆者のますますの活躍を期待します。

※二〇一〇年発行の本誌第四号にも、全国高校生集会の参加記が掲載されています。関心のある人は、高人教のHPをご参照ください。本稿へのご感想もお待ちしております。

今回初めて記事を書かせて頂く高校3年生です、どうかよろしくお願
いいたします。

8月9日、私は第10回シンポジウム「これでいいのか ネット社会の
“今”」というものに参加しました。このシンポジウムを主催している
のは「奈良県市町村人権・同和問題啓発活動推進本部連絡協議会」とい
う長い名前の団体で、「インターネットステーション」を開設し、いわ
ゆる差別書き込みに対して削除要請をしてきた団体だそうです。

解放研究部の顧問の先生に薦められてこのシンポジウムを知り、実際
に行くきっかけとなったのですが、私自身が元々、大人達が集まって語
り合う光景が好きなのと、「これでいいのか」と言う挑戦的な題名に惹
かれたのも大きな要因です。シンポジウム当日は燈花会があったので終
わったら寄ろうかな、なんて考えながら炎天下の中を近鉄奈良駅から文
化会館までとぼとぼ歩いていきました。会場についてみると結構人がい
て『この暑い中よく集まるもんだ』と思いました。私もその中の一人な
んですけれどね。さて、ここで一つ問題が起こりました。どうやって受付
をすませればいいのか分からない。普段ネットばかりして人と面と向か
って喋らないオタクで「ねらー」な私が初対面の相手に喋りかけるなん
て高度な技を持つてる訳が無い。なので、5分ぐらいずっと人の動きを
観察していました。

(なるほど、どうやらあの紙に名前やらを書いてあそこに渡せばいいら
しい)
「どうしました?」と声をかけられない内にさっさと書いて渡しホール

に入りました。

優しさという名の凶器ほど鋭利なものはありませんからね。

入ってからまた問題が起こりました、というより気付きました。(眼鏡忘
れた…)

私は眼鏡を掛けていなければ教室の真ん中程度の距離から黒板の上に掛
けられている時計の数字が見えなくなる程視力が悪いです。パソコンのやり
過ぎですね、はい、自覚してます。でも、やめられないとまらないかっぱえ
びせんの魔力があるんですよ。話がずれました。折角来たのに見えないんじ
ゃ意味が無い、ということで前から2列目の席に座ります。渡されたパンフ
レットを見てたらいつの間にか開始の時間直前になっていました。ここで改
めてどんな人が来ているのかチェックする為に後ろを見渡します。席がほと
んど埋まっていて驚きましたね。どんな人達が来ているのか見た結果、ほと
んどが中年からお年寄りでした。矢張り人権や差別という事が絡むとある程
度歳のいった人が多くなるのかな?と思った矢先でした。私と同じ2列目の
右側に小さな女の子を連れたい子連れのママさんが居ました。

(ほう、若いのに、しかも子連れか。いや、子供に留守番させるのが不安な
のかな?)

なんて色々考えているとビィィィィ!という何度聞いても喧しい音がホ
ールに鳴り響きシンポジウムが始まりました。 以下次号

……こんな所で切ってしまい誠に申し訳ありません。シンポジ
ウムに行っただけで言いながら全く内容に触れていませんね。
しかし私ではページ制限というラスボスには抗いようがない

【高解研の活動を紹介します!】

昨年の2月3日(日)、私たち当時の1年生(男子2名・女子
2名)は、桜井市中央公民館で開催された高解研の研修・交流会
に初めて参加しました。◆午前の研修会では、スクリーンに映し
出された『だまし絵』などを見ながら研修を受けました。だまし
絵では、その人の思い込みや目の錯覚などで、それぞれに違った
絵に見えていたり、あるいは反対に見えなかったりしていまし
た。1つの絵の中にもう1つの絵が隠されているだまし絵は、人
それぞれに見え方があり、とても考えさせられ勉強になりました。◆研修後、「手打ちうどん作り」で交流会をしました。同じ
高校の生徒が重ならないようにグループ分けがされていたので、
最初は知らない人ばかりで緊張しましたが、自己紹介をしたり、
グループ対決で大きな声を出したり、近くのスーパーへ買い出し
に行ったりして、段々と緊張感は解消され、やがて“なかま”意
識が芽生えてきました。その結果、うどん作りはとても楽しく体
験することが出来ました。出来たうどんは、麺の硬さや太さなど
に少しバラツキはありましたが、「ぶっかけ」や「釜揚げ」など、
食べ方や味付けには各グループごとの工夫が見られました。この
交流会では、初めて会った人達と協力してうどん作りを行い、一
緒においしく頂くことができ、『協働』という今回の研修会の
テーマが合っているなど感じる事ができて良かったです。◆今
回の研修・交流会に参加して、たくさんの人と交流・協力し、み
んなと仲良くなる事が出来たので良かったです。今回の経験を
今後の高校生活にも生かして行けたらいいなと思っています。

(奈良情報商業高校 人権クラブ)

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。今年
の第2回研修・交流会は2月2日(日)。参加をお待ちしています!

高校生の人権広報誌

“Freedom” 第14号(2014年1月11日発行)
発行 奈良県高等学校人権教育研究会
〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県人権センター内
TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。

がら、世界中の
食文化や楽器、



遊びなどを体験しました。
これからの日本社会は、多くの異な
る文化を持った外国人と接する機会
が増えると思うのですが、ともに生き
ていく上で異文化を理解するのが大
切になってくると思います。今回参加
した「ならサンウリム」で、多くの文
化を知ることができ、その大切さがわ
かったように思います。

Q 練習に六時間か
けたりと非常に
苦労されていると
思うのですが、力
の源は何ですか?
A 練習でしんどい
と思ったことはな
いですが。(笑) 自分の好きなことな
ので、夢中でやっています。
Q 最後に夢を実現した「ちゃんへ
ん」さんだからこそ言える夢を实
現させるための高校生へのアドバ
イスをお願いします。
A 僕が言えることは、「嫌なもの
も積極的に」ということです。僕も
苦手なジャグリングの技の練習が
あるのですが、そういうことも積極
的にやってみれば、苦手を克服する
ことも、また好きなものもより好き
になることにつながるの、とりあ
えず嫌なことでも積極的にしてい
は

「ならサンウリム」に
行きました

十一月十日、私たち香芝高校解放研は、
活動の一つとして、「ならサンウリム」
に参加してきました。「ならサンウリム」
とは、一九九四年に天理大学南棟グラウ
ンドで初めて開催されて以来、二十年間
続いてきた、多文化共生の祭りのこと
です。会場の奈良県人権センター内には外
国の言語に翻訳された日本の歌が流れ
(「崖の上のポニョ」がスペイン語で流
れていました)、外国にルーツを持つ
人々が数多くの店を出してました。天
気は良くなかったのですが、非常に活気
があり、店の方々も私たちに優しく接し
てくれました。在日外国人が集まり行わ
れるこの行事は、多くの国の方々がいて、
それぞれ異なる文化で、価値観も違ふと
思うのですが、皆が一体となっていると
感じる事ができ
て、楽しみな

「ならサンウリム」にゲストとして
登場され、見事なパフォーマンスを披
露された、「ちゃんへん」さんにイン
タビューしました。
Q ジャグリングを始めた理由は何
ですか?
A ジャグリングの世界大会を初め
て見た時に直感でかっこよくて、や
ってみたくて思いました。ショーと
いうのは、しゃべることが中心と思
っていたのですが、音楽に合わせて
やっているのを見て、概念が吹き飛
ばされました。

Q 練習に六時間か
けたりと非常に
苦労されていると
思うのですが、力
の源は何ですか?
A 練習でしんどい
と思ったことはな
いですが。(笑) 自分の好きなことな
ので、夢中でやっています。
Q 最後に夢を実現した「ちゃんへ
ん」さんだからこそ言える夢を实
現させるための高校生へのアドバ
イスをお願いします。
A 僕が言えることは、「嫌なもの
も積極的に」ということです。僕も
苦手なジャグリングの技の練習が
あるのですが、そういうことも積極
的にやってみれば、苦手を克服する
ことも、また好きなものもより好き
になることにつながるの、とりあ
えず嫌なことでも積極的にしてい

